

平成29年度 カリキュラム委員会 議事録

日時： 平成29年4月6日（木） 18:00～19:15

場所： 広仁会館 中会議室

出席者： 秀委員長、栗井、安達、石田、今田*、鶉飼*、岡村、越智、木矢、栗栖、坂口、田妻、田中、平川、平松、松下、安井各委員（*は学生委員）

欠席者： 眞田委員

陪席者： 玉田主査（学生支援グループ）、酒井（学生生活担当学部長補佐）

審議事項

- 1) 委員会の冒頭で、平松委員、木矢委員に委嘱状の授与があり、引き続いて秀委員長より、委員会の趣旨について説明があった。
- 2) 松下委員より、資料に基づき医学科のカリキュラムの概要及び29年度の計画について説明があり、引き続いて意見交換を行った。鶉飼委員より、MD-PhDコースの学生の共用試験の扱いおよび臨床実習の週数について質問があり、共用試験の扱いについては秀委員長より、学生の不利にならないよう最大限の努力をする旨の回答があった。臨床実習の週数については松下委員より、正規のカリキュラムを超える実習週数が必要な場合は、休業期間を用いて実習を行えば、それを正規の実習と認める道がある旨の説明があった。
- 3) 松下委員より、平成28年度に行われた教育に関する資源の活用と配分について資料に基づき報告があった。
- 4) 松下委員より、医学科の使命（案）について、使命の策定に至った背景について説明があり、続いて秀委員長より内容について諮問があった。安達委員より、内容がここまで具体的である必要があるかとの質問があったが、松下委員より、認証基準では教育の目的と教育指針まで要求されている旨の説明があり、栗栖委員より、原語の「strategy」には教育方法の具体的な記載を含むとの指摘があったため、原案通り承認となった。平松委員からは、社会的責任を自覚させるのは非常に重要なことであり、これが含まれているのは大変よいことであるという意見があった。
- 5) 松下委員より、入学者数と入学する学生の資質について、地域や社会の代表として外部有識者の意見を聴取したい旨の要請があった。秀委員長より、ふるさと枠の定員については今後漸減の見通しである旨の説明があった。田妻委員より入試に関連して、ふるさと枠の学生が現在課外扱いで行っている実習について、単位化した正式な科目にしてカリキュラムに明示し、入学時にふるさと枠の学生に示すようにはしてかどうかの提案があった。これに対して秀委員長より、引き続き検討する旨の回答があった。
- 6) 秀委員長より、卒業生の実績に対して外部委員からのフィードバックの照会があり、平松委員、木矢委員、平川委員より意見があった。卒業生の臨床現場における活躍については概ね高い評価が述べられるとともに、社会における現在の役割、立場等についての調査の必要性が指摘された。